

# 地球環境と世界市民

EARTH ENVIRONMENT AND GLOBAL CITIZEN

「地球環境と世界市民」国際協会は、地球上に存在する一人一人が世界市民であることを自覚するとともに、その世界市民が国際的に「地球環境問題」ひいては「生命に関わる問題」についての理解を深め、その解決への取り組みを“今できること”から実行し、協力していくことを目的とした協会です。このニューズレターは、本協会のこうした主旨にもとづき、協会員相互のコミュニケーションをはかるために発行されています。

## サテライト・シンポジウム

### 「カナダの自然と環境教育 - 先住民の知恵を通じて - 」のお知らせ

来る8月25日に、第4回国際保健医療行動科学会議のサテライト・シンポジウムを、本協会及び日本環境教育学会関西支部との共催で、カナダ・ヴィクトリア大学教授 Nancy Turner 先生をお迎えして開催します。題目は、「カナダの自然と環境教育」です。

Nancy 先生は、96年「環境倫理と環境教育」の国際シンポジウム（於：甲南大学）でもご参加され、今回の国際会議（本協会・共催、次頁参照）では「カナダの先住民のハーブ療法」でワークショップをされます。そしてサイドプログラムとして、本協会主催で環境教育を中心とした座談会形式の「カナダの自然と環境教育」についてお話し合いをおこないます（通訳あり）。雄大なカナダの自然環境のスライドと先住民の知恵による環境教育の展開をお楽しみください。

御略歴：プリティッシュ・コロンビア大学において植物学専攻。現在カナダ・ヴィクトリア大学教授、ご専門は環境学（栄養素、科学技術、言語、ヘルスケア、物語と植物との関連性、その他郷土保存と資源管理に関しても活発にご活躍）です。植物学の業績によって、欧米の数々の賞を受けておられます。研究者としてのお顔だけでなく、おだやかなやさしいお人柄にも触れていただければと思います。

主催：「地球環境と世界市民」国際協会 共催：日本環境教育学会関西支部

参加申込方法：ハガキでお名前、連絡先、住所、所属、参加日を明記の上、整理の都合上、事務局までお申込みください。当日参加もできます。

日時：8月25日（土）13：30～15：30 場所：甲南大学8号館

参加費：1,500円

（本会議の26日の柳田邦男氏などの記念講演にも参加される場合は3,000円）

事務局：〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1 甲南大学文学部谷口研究室気付

TEL/FAX：078-435-2368 E-mail：fumiaki@konan-u.ac.jp

## 第4回 国際保健医療行動科学会議 「『健康』のための統合的アプローチ」のご案内

日時：2001年8月24日（金）25日（土）26日（日）  
会場：甲南大学（〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1）  
主催：日本保健医療行動科学会  
共催：国際社会学会、日本保健医療社会学会、  
日本精神保健社会学会、ヘルスカウンセリング学会、  
「地球環境と世界市民」国際協会  
協賛：ホリスティック医学協会、日本歯科医師会、  
日本看護協会、日本代替・相補・伝統医療連合会議  
後援：日本ホスピス在宅ケア研究会、  
在宅ケアを支える診療所全国ネットワーク、  
日本環境教育学会、日本医師会  
交通：JR 摂津本山駅または、阪急岡本駅から徒歩10分

### 8月24日（金）[通訳付（午前中）]

9:30 ~ 受付  
10:00 ~ 10:30 開会宣言 谷口 文章（大会委員長）  
来賓挨拶  
10:30 ~ 11:00 ウェルカム・セッション  
「音と色彩の芸術」（フィーリング・アーツ 北村義博）  
11:00 ~ 12:00 基調講演 「『健康』への統合的アプローチ」  
宗像 恒次（日本保健医療行動科学会 会長）  
12:00 ~ 13:00 昼食（ポスター展示開始、26日13:00まで）  
13:00 ~ 17:30 一般演題（口頭発表）  
18:00 ~ 歓迎パーティー（甲南大学生協レストラン）

### 8月25日（土）[通訳付]

9:30 ~ 受付  
10:00 ~ 12:00 特別講演 「アメリカにおける統合医療プログラム」  
エレン・ヒューズ  
（米国・カリフォルニア大学 統合医療オッシュャーセンター 所長）  
12:00 ~ 13:00 昼食  
13:00 ~ 16:00 ワークショップ [ホリスティック・ナーシング]  
ルース・ベナー（英国・ホリスティック看護協会創設者）  
< 13:00 ~ 17:30 一般演題（口頭発表）  
ポスター・ディスカッション・タイム >  
16:00 ~ 16:15 休憩

16:15 ~ 18:30 ワークショップ 「カナダ先住民のハーブ療法」  
ナンシー・ターナー（カナダ・ヴィクトリア大学教授）

### 8月26日（日）[通訳付]

9:00 ~ 受付  
9:30 ~ 10:30 記念講演 「日常生活に生きるアーユルヴェーダ」  
真理 アンヌ（インド/日本・アーユルヴェーダ実践家）  
10:30 ~ 12:00 記念講演 「人間性への眼差し - ホーリズムの視点から - 」  
柳田 邦男（日本・ノンフィクション作家）  
12:00 ~ 13:00 昼食  
13:00 ~ 15:15 シンポジウム “医療をめぐる東洋と西洋の統合的アプローチ”  
司会：谷口 文章（日本・甲南大学）  
コーディネーター：谷 莊吉（日本・はやしやまクリニック  
名誉院長）  
特別報告：渥美 和彦（日本・東京大学名誉教授）  
シンポジスト：ルース・ベナー（英国・イギリスホリス  
ティック看護協会創設者）、エレン・ヒューズ（米国・カリ  
フォルニア大学統合医療オッシュャーセンター 所長）  
ナンシー・ターナー（カナダ・ヴィクトリア大学教授）  
真理 アンヌ（インド/日本・アーユルヴェーダ実践家）  
柳井 勉（日本・関西福祉科学大学）  
15:15 ~ 15:30 休憩  
15:30 ~ 17:00 引き続きシンポジウム  
17:00 ~ 17:15 閉会の挨拶 宗像 恒次（学会長）

### 8月27日（月） オプショナル・ツアー

9:00 出発（集合：甲南大学）  
11:00 ~ 五色県民村・健康道場（絶食療法専門施設）

### サテライト・シンポジウム

#### 8月24日（金）

13:00 ~ 14:00 サテライト・シンポジウム（ヘルスカウンセリング学会）  
「ヘルスカウンセリング - イメージ療法のサイエンスとアート - 」  
14:00 ~ 17:00 サテライト・シンポジウム  
（日本精神保健社会学会、国際社会学会精神保健部会）  
「Year 2001 Interim Conference on Integrated Approaches to Mental Health」

#### 8月25日（土）

13:30 ~ 15:30 サテライト・シンポジウム  
（「地球環境と世界市民」国際協会主催、日本環境教育学会関西支部共催）  
Nancy Turner 基調講演と座談会「カナダの自然と環境教育 - 先住民の知恵を通じて - 」

# 地球環境と世界市民国際協会第4回大会報告

第1日目 2001年4月28日(土)

## 「地球環境と世界市民」国際協会・第4回大会に参加して～C会場の模様～

森家章雄(神戸商科大学)

大会1日目は、研究大会の部として甲南大学本校舎にて開催された。午前中はABCの3会場に分かれて分科会(研究発表会)が行われ、筆者は赤尾先生(GEC)と分担してC会場の座長を務めた。他会場分については別の方が報告されるようなので、本稿ではC会場の模様を紹介する。

一報告当り30分の割り当てで計4件の報告があった。最初は渡辺隆俊氏(甲南大学)が「環境情報とデジタル教材」と題して、わが国におけるITの進展、教育の情報化の現状解説から講演を始められた。環境教育の情報化の進展にあたっては、情報技術がもともとの属性として持っているgive&takeに加えてthinkが必須であり、そのための適正なデジタル教材としてどのような環境コンテンツを作成していくのが課題であると指摘しておられた。

仲座良造氏(大阪大学・院)が報告された「日常生活における放射線の影響」では、地球上の場所による天然放射能レベルの違い、医療放射線被曝量の日英比較、原子力発電における事故発生率見積もりに人為ミスへの考慮が足りなかったという指摘などが印象深い。

稲尾智則氏(日本分析化学専門学校)は「メカロニカルアロイング法により作成したMgNi系合金の負極特性の検討 - 環境問題の視点から - 」と題して、資源節約・廃棄物減量の視点から、家庭用電池を使い捨て型から充電型に転換すべて取り組まれている基礎研究(負極材料合金の新しい作成法の検討)について報告された。

山本正高氏(甲南大学)の報告「日本型野外活動へのネイチャー・ゲームの導入」で、ネイチャー・ゲームは1979年ジョセフ・コーネルの考案で始まったと述べられたが、筆者は「自然への気づき」という視点でレイチェル・カーソンの「センス・オブ・ワンダー」(1965年)とどのように関係しているのか興味をそそられた。

当日午後のプログラムもSara TurnerさんとDamon Matthewsさんによる“Research Report: The Momkeys in Awajishima: An Inquiry into the Treatment of Japanese Disability in a Primate Community”をはじめ、充実した内容でよかったです。



第2日目 2001年4月29日(日)

---

## The impression of participation in the 4<sup>th</sup> Congress of Earth Environment and Global Citizen.

Sarah Turner and Damon Matthews  
Graduate Students of University of Victoria in Canada

---

Last weekend we participated in the Earth Environment and Global Citizen symposium at Konan University. This event was very inspiring. We particularly enjoyed the experiential component – hands on field work at Hirono Ground. Walking through the forest, seeing the biotope, and planting vegetables provided an opportunity to practice environmental education in a meaningful way.

It was interesting to see how much has changed in the two years since we last visited Japan. The biotopes, both at Konan University campus and Hirono Ground, are excellent tools for environmental education, and were recent additions to the environmental education program at Konan. It was also very impressive to see the large garden that has been built at Hirono Ground since we were last here. Recently in Canada, awareness of the importance of growing local, organic food has increased tremendously. It is exciting to see that this important aspect of environmental education is flourishing here in Japan as well. Initiatives like these are not only important locally, they also provide common ground for discussion and learning at an international level.

As before, professor Taniguchi and his students were very kind and hospitable to us. Despite our poor Japanese language skills, we were able to learn a great deal. Thank you to all the people who took the time to translate for us (especially Yasuko). This conference also provided a valuable opportunity for me to present my planned research at the Awajishima Monkey Center. We really appreciated our experience this weekend.



ワークショップ : ネイチャアゲーム「一本の木をめぐる詩」を披露する Mr. Damon

# ワークショップ報告

## ネイチャーゲーム

山本正高（甲南大学研究生）

### <ネイチャーゲームとは？>

ネイチャーゲームとは、1979年米国のナチュラルリスト（自然環境教育指導者）ジョセフ・B・コーネル氏によって発表された五感を使って自然を直接体験するプログラムです。

ネイチャーゲームは地球上に住む多くの子供達、そして大人達が、自然を楽しみながらそのすばらしさに感動し、自然への理解と体験、豊かな感性を得るための環境教育プログラムです。ネイチャーゲームは、自然に関する特別な知識が無くても、自分の感覚で自然を楽しめるのが特徴です。また、四季折々に森でも公園でも海辺でも、五感を通じて自然を感じることが出来るため、子供と大人が一緒になって自然をわかちあうことが出来ます。

ネイチャーゲームは、ジョセフ・B・コーネル氏により考案された「フローラーニング理論」に基づき、4つに分類されています。

フローラーニングとは、自然の気付きを深めるために、参加者の心の状況にあわせながら、4つの段階を意識してプログラムをすることです。

実際のフローラーニングの流れは、第1の段階は「熱意を呼び起こす」。遊びの要素にあふれた活動を通して自然や友達への熱意と関心と呼び起こします。第2の段階は「感性をとぎすます」。感受性を高め、感覚を集中し、五感を使って観察力を養います。第3の段階は静かに自然の中にとけ込みながら、自分自身を見つめ、自然との一体感を味わいます。そして最後の第4段階は「感じたことを分かち合う」。自然体験を通じて得た発見・感動・共感をふりかえりながらお互いを分かち合います。

### <ネイチャーゲームの実践>

5月の「地球環境と世界市民」国際協会・第4回大会のワークショップで「1本の木をめ（愛）でる詩」というプログラムを行いました。今回のワークショップでは、ネイチャーゲームを体験することと共に、プログラム全体の構成に関しても考えてみることを目的としました。

まずは、プログラムの最初に「アイスブレイク（参加者の気持ちをリラックスさせるためのプログラム）」を行いました。今回のように、対象の年齢や属性が広い場合は、特に「アイスブレイク」の導入が重要になってきます。ここでは、声を出すこと、体を動かすこと、他の人と交流することが必要となってきます。さらに、グルーピングを行い「マジカル・スクエア」というゲームを行いました。ネイチャーゲームでもグループ毎に行ってもらおうことになっていたため、まずグループで一つのゲームを行ってもらい交流を深めてもらうためにこのゲームを用いました。そして最後の「1本の木をめでる詩」にスムーズに持っていけるように、このワークショップ全体のプログラムを考えてみました。

一つ一つプログラムがいかに効果があっても、全体の流れからはずれてしまえば必ずしもプログラムが本来持っている効果が期待されなくなってしまうことがあります。各指導者もこの点を考慮しプログラムを設定しなければならないでしょう。

今回のプログラムでは、全体的に少し時間が短く、参加者を少し急かしてしまっただのは残念でした。しかし、「1本の木をめでの詩」では各グループの個性や特徴がよく現れた詩ができたのはとてもうれしいことでした。このゲームアメリカで生まれたものですが、“詩を作る”作業は、日本人は古くから俳句などで親しんできたものです。日本人として取り入れやすいゲームであると考え、このゲームを選択しました。このゲームは自然の風景（今回は一本の木ではなく風景を対象としました）をグループで選択し、各個人が時間をかけて一つの風景から言葉を書きだしていきます。“すぐに出てくる言葉”、“時間をかけて出てくる言葉”。この言葉の違いを自ら感じるのも面白いでしょう。そして最後はグループでまとめて一つの詩をつくります。色々な観点がそこに存在するため、まとめるのは大変な作業です。しかしこれがこのゲームのおもしろさの一つです。自分だけの世界を創るのではなく、様々な世界を創り、一つのをまとめるのです。別の人の世界から何かを得る（感じる）ことができればこのゲームは成功したと考えてよいでしょう。

プログラムには流れがある。プログラムは対象によって変化する。プログラムには特徴がある。このことを考えた上で、プログラムを設定、選択していくことが必要であると思います。



## 「1本の木をめでの詩」

.....

鏡 (広野にて)

風わたりゆくみなも  
サラサラと波打つ水紋  
新緑、黄緑、青緑  
濃いうすい緑  
水に映える淡いみどり  
たたずむ枯木  
樹々の影  
静寂に包まれた  
鏡の中の世界に思いをはせる  
一瞬、  
鳥の声、こだます歓声  
(桂恵理、中谷怜子、橋田崇史、山本満義、赤尾多美)



黄緑のはっぱきんいろのくさにつつまれて  
一本さみしく茶いろい道  
てんまでそびえるめぐみの木、  
かがやくみどりの中を見えない風と  
すれちがう人、一人  
ときのたび人ゆっくりと、帰る道は土の道  
まち人はゆっくりと人の道とりの道  
(木内先生、飯尾先生、山田悦子、石神華乃、  
土居加奈子)



緑の小路ゆったりとたたずんで耳を澄ますと  
so many birds as urgent as the piccolo  
新緑の甘いにおいに包まれて  
a wisper of wind animate the silent leaves  
新緑のむこう 雲の流れを見つめていると  
未来への夢が広がり、とてもいい気分  
the road grooved but travelled now by small  
flying insects  
若葉の森の春へのいざない  
(谷壮吉、鎌田靖子、坂田加奈子、上杉美紀、  
Sarah、Damon)



「水と光と」  
ホーホケキョキョー  
ウグイス キジ アメンボウ ヒト  
われるさざなみ そよぐ風  
水面にうつる新しい緑やわらか  
心に呼びかける不透明な濃淡

ぶくっと広がるまんまる  
静かな幸福の「時」  
雲動く

(米澤里美、川口友也、石神由健、恩地実、谷口ひろこ、見尾瑞枝)





野原に一本の木  
緑の霧の中に黒々と  
ひのき・杉・竹林・山藤そして雑木林  
冬枯れの新緑との対比  
ほほをなでる風 草の声、木の声  
ウグイス鳴く 鳥たちのあいさつ  
エンジンの音 さびしく立たずむ乙女  
プレーリー・草原 道のかたわらには  
くちたトラック  
文明の残がい じゃのめちょう  
みずみずとしたみどり、無  
やわらかく つめたい そして  
なまぬるい  
子供の頃

どこかに続く道がある  
道の向こうには何があるのだろう？

百万のいのち 共生

(天野雅夫、赤尾整志、渡辺愛理、嶋本春恵、奥田真二郎、長安津衣子)



水のきらめき力強い小さな泡  
風が吹くたび水面にうつる光の影光の道  
水面をなでる世界白く輝き不思議な風鏡面  
水の上を歩く音  
ゆるやかな時がもたらす水の変化

碧い緑、木々のささやき  
さみしそうに立つ枯木とあふれる緑の  
コントラスト  
静けさ、鳥の鳴き声風を切って飛ぶ音

二つの世界の間で  
地面に腰をおろし、何も考えずぼんやりと  
過ごす  
いやしの時間

小さな生命、ここに居るぞとよんでいる  
私も一緒によんでみる

(牧野雄一郎、中野友博、岡田泰典、矢野幸子、小山真輔、高原哲史)



### 第3日目 2001年4月30日(月)

#### 野菜作りのワークショップに参加して

高嶋伊津子

大会3日目、広野でのワークショップに娘(8歳)、息子(5歳)と共に参加しました。

開墾したばかりの畑の石拾いから始まって、さまざまな野菜の苗植え、畑に面した通り道を作りかけの里山探検、木を切るところからの階段作りと何も無いところから開拓していく過程を経験しました。はじめて知ったことや知識が実体験とつながったうれしさ、大小の驚きで子どもときのような純粹で無邪気な気持ちを思い出しました。

当初、とてもシャイで初めての場所や人になかなかなじめないうちの子供達を心配していました。けれど特に心配していた下の息子は広野に着くなり、妙に生き生きしてくるではありませんか！虫や池のまわりの木々を見つけては狂喜し、畑の石拾いでは普段は持てないほどの重さの石を持ち上げ、里山への坂上りに何度も挑戦し、里山探検ではあの怖がりの息子が私の手をひっぱって気遣ってくれるのです。娘も一匹のかえるを1日中追いかけ、家の近所では会えないまるまる太ったダンゴ虫を愛おしそうに手のひらに遊ばせています。私は自分の子どもの今まで知らなかった部分を見ました。

生き物への愛情・興味、湧き出てくるエネルギーや挑戦しようとする意欲は本当に子どもの中に備わっているんだ、子どもの内なる自然と外の環境がマッチする時、子供達はこんなにもいい顔をみせるんだなあと実感しました。



## 事務局だより

- 1、次の事業について共催を許可した。  
第4回国際保健医療行動科学会議(期日:2001年8月24日~26日 於:甲南大学)
- 2、次の事業について後援を許可した。  
第5回世界閉鎖性海域環境保全会議 EMECS 2001(期日:2001年11月19日~22日 於:神戸市・淡路島)
- 3、日中韓三カ国環境教育ネットワーク(TEEN)事業の「環境教育データベース・日中韓フォーマット」(日本環境教育フォーラム)に「日中環境教育情報交流協会」が登録された。
- 4、「地球環境と世界市民」国際協会・2000年度第1回拡大運営委員会 議事録  
日時:2000年8月4日(金) 18:00~20:00 場所:甲南大学2号館7階  
人間科学科共同研究室  
出席者:谷口、石神、今井、松田、赤尾、森家、天野、鎌田、松谷、渡邊、渡辺(り)、福島、檜原、和田  
オブザーバー:嶋本、渡辺、山本、松田、日比野、原口、萩原、西峯、

### 報告事項

#### (1) 事務局報告

「地球環境と世界市民」ニュースレター発行状況、日中環境教育情報交流協会の設立(「地球環境と世界市民」国際協会・第1回大会、1999年8月16日~23日、於:北京大学)、「地球環境と世界市民」国際協会・第2回大会、(2000年4月1日~2日、於:甲南大学)の報告。

#### (2) 日本・タイ国際会議の経緯

日本・タイ国際会議開催の目的、日本・タイ国際会議の準備状況の報告。

### 審議事項

#### (1) 国際協会の今後の方向づけ

近い将来、学術団体にするか、NGO、NPOなどの市民団体として位置づけるのか、両方向の可能性を持たせつつ、模索していく。

研究会・部会の運営、誰もが実行できる具体性・可能性のある活動を明確にし、テーマごとの講演会などの開催、グラス・ルーツ的な活動の展開をはかる必要。

市民参加型ワークショップの具体的な提案として、エコ・クッキングなど部会で展開すること。

日本環境教育学会など、他学会との連携。

理論と実践が融合した形での国際協力を行なう。

実践的な環境教育の教材開発、国際的な環境情報ネットワークの確立。

ローカルからグローバルへとつなげていき、具体的モデルを環境教育の教材の中に組み込む。

会員組織の充実が課題。

## (2) 今後の予定

国際協会によるネットワーク化は、今まで開催した国際会議で信頼を得てきた、中国・オーストラリア・カナダ・タイ・イギリス・韓国・ドイツなどの各大学へと拡げられる予定である。

### 研究会

エコ・クッキングの研究と実践を定期的に行なうことになった。

- 5、第4回大会期間中に第2回総会が開催された。谷口文章会長による議事の説明の後、すべての議事に対して、出席者から承認が得られた。主要な議事としては、2000年度事業報告、2000年度決算報告、2001年度事業計画であった。
- 6、2001年度年会費のご入金をよろしくお願い致します。

## エコクッキングレシピ Vol. 4

### ～お手軽ピクルス～

- <材料>・きゅうり ・カリフラワー ・にんじん  
・パプリカ(レッド・イエロー・オレンジ)...お好みのお野菜でどうぞ  
・酢 1カップ ・水 2カップ  
・砂糖 小さじ1 ・塩 大さじ2  
・にんにく生 3片 ・たかのつめ 3～6本  
・ミックス粒こしょう 小さじ2 ・ローリエ 2枚  
...にんにく・たかのつめ・粒こしょうのからさの調節はお好みで  
...塩：適量

### <作り方>

1. 調味料をすべて鍋に移し、ひと煮立ちさせ、すべての調味料を溶かしてさましておく。
2. 野菜はお好きなようにカットし、塩でもみ、しばらくしてから水洗いをし、水気をよくきる(味のしみにくい野菜はさっとゆでて、さましておく)。
3. 野菜と調味料をあわせ、1日以上つけておく。  
早いものは翌日より食べられる。



保存する場合は必ず煮沸消毒した容器  
いれ、野菜は必ず液をかぶるようにす  
ること

## 編集後記

○下記のホームページにも最新の情報を掲載しておりますので、ご参照ください。

「地球環境と世界市民」国際協会ニュースレター No.5

事務局：「地球環境と世界市民」国際協会

〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1

甲南大学文学部人間科学科 谷口研究室気付

Tel/Fax:078-435-2368 E-mail: fumiaki@konan-u.ac.jp

Homepage: [http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/iaeg/iaeg\\_j.html](http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/iaeg/iaeg_j.html)